

「もっと響く指導」に するために！ 生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を2006年から12年まで伝えてきた「生きたデータの徹底活用」のコーナー。更に響く指導を実現するために、これまで掲載した記事を基に現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 3年生0学期の保護者への働き掛け



「生きたデータ」2012年12月号を参考に、
生徒と保護者の進路についての対話を促したところ……

ダウンロード

● 進学に対する生徒と保護者の考え交流シート

()年 ()組 名前： ()

	生徒の思い	担任コメント	保護者の思い
何のための大学進学か・ どんな大学に 進学したいか			
大学生活で 力を入れたいこと			
大学卒業後の夢、希望			
3年生をどのように 過ごしたいか			

私の狙い
 3年生0学期に家庭でのコミュニケーションの土台を築き、進路について話し合ってもらおうと考えた

取り組み内容
 生徒と保護者に進路への思いを書いてもらい回収した。担任からのコメント欄は、設けたものの多忙だったので割愛した

感じた課題
 従来の進路希望調査との違いが明確にならず、家庭でのコミュニケーションのきっかけとして十分に機能しなかった。私自身が活用しきれなかったという課題もあった

「もっと響く指導」
のポイント

①

保護者と教師がチームになり
生徒の志望を後押しする

文化祭や体育祭などの行事が終わった3年生0学期は、生徒の意識を受験に向けて切り替えるのに絶好の時期です。本校でも生徒に様々な働き掛けを行っていますが、ここ数年、保護者へのアプローチも重要だと感じるようになりました。

私もそう思います。近年、保護者が子どもの志望を十分理解できておらず、進路決定時に衝突が生じることがあります。無意識に子どもの志望よりも自分の思いを優先している保護者が少なくないようです。保護者が子どもの志望を理解して、教師とチームになって子どもを応援する雰囲気づくりが2年生の段階から必要だと思います。

そこで私は、前任校で2年生の担任を務めた時、上の図のような生徒と保護者のコミュニケーションを活発化させるためのシートを配布しました。しかし、本来は担任もコメントを記入するべきところを、多忙を理由に割愛してしまったのです。そのせいか、保護者からは表面的な記述が多く、特にコミュニケーションが活発になったという手応えは得られませんでした。

保護者は「担任の応援の言葉」を聞いたかたのではないのでしょうか。この時期の多忙さは私も分かりますが、ひと言でも担任としてコメントを記入し、それを家庭に返却するべきだったと思います。コミュニケーションは記入時ではなく、担任を含めた3者のコメントがそろった時に始まるのではないのでしょうか。

*このコーナーは、高校の先生方（今回は関東）との検討会の内容を基に構成しています。

若手先生代表

関東の公立高校に勤務。14年度は2回目の2学年担任。



A先生(30代)

ベテラン先生代表

関東の公立高校に勤務。14年度は2学年主任を務める。



B先生(50代)



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」活用改訂案



●生徒・保護者・教師の進路検討シート

() 年 () 組 名前: ()

現時点での志望校		目標SS	入試科目
1.	● ● 大学 △ △ 学部 □ □ 学科	65	センター試験 国 数 英 地 公 理 個別学力試験 国 数 英 地 公 理
2.	◎ ◎ 大学 ▲ ▲ 学部 ■ ■ 学科	63	センター試験 国 数 英 地 公 理 個別学力試験 国 数 英 地 公 理

	生徒の思い	保護者の思い	担任の思い
何のための大学進学か・どんな大学に進学したいか	本やマンガが好きなので文学部に行きたい	資格の取れる大学に進んでほしいです	部活で頑張った強さがあれば、数学もきっと克服できると信じています!文学部からいろいろな進路が広がります(もちろん教員免許も取れる大学もあります)。これから話し合っていきましょう!
大学生活で力を入れたいこと	バイトしたい!	学業に集中して、将来を見据えてほしいです	
大学卒業後の夢、希望	マスコミの仕事か、海外で働きたい	地元で教師か公務員に……	
3年生をどのように過ごしたいか	苦手な数学も頑張る	今まで部活ばかりだったので、勉強してほしいです	

「もっと響く指導」のために改訂すると……



A先生が参考にしたシートは、生徒と保護者それぞれが記入した内容に対して担任がコメントする書式でした。それを負担に感じるようであれば、担任からのコメント欄は1つにしてもよいと思います。



正直、負担感もありますが、生徒や保護者の言葉に対して何を書けばよいか見通しが立っていなかったところもあります。そのため、担任のコメントを省略してしまいました。



担任のコメントは、生徒を褒め、志望を応援するものがよいと思います。「何のために学びたいか」「どんな力を身に付けたいか」など、生徒の思いを受け止めて、心から応援するひと言を入れましょう。気持ちを前向きにするコメントを読めば、家庭での会話も弾みます。志望理由をきちんと述べるのが出来ない生徒のために、入試科目など、調べれば書ける項目を用意するのも一案です。担任は得意教科を材料に生徒を褒めることが出来ます。私は若手の頃、先輩の先生に「保護者の前で、生徒の長所をたくさん挙げられる教師が優れた教師だ」と言われたことがあります。担任が生徒の長所を理解していることが保護者に伝われば、保護者も安心して家庭での子どもの様子や、子どもとの間の心配事を話してくれると思います。保護者の心を開く、暖かな太陽のような応援の言葉を担任が記入すれば、3年生の学年団への前向きな引き継ぎ資料としても活用できるでしょう。

プラスαの検討ポイント

From 編集部

保護者と教師がチームとなるには3年生0学期が絶好のチャンスか?

今回の検討会では、進学校の先生から「近年、落ち着いて受験勉強に臨めない生徒を見ると、保護者とのコミュニケーションに原因があるケースが増えている気がしてならない」という声が出ました。3年生0学期に担任が保護者と直接話をする機会が確保されているケースは少ないようですし、「受験生の保護者」としての意識付けは3年生の学年団が担う学校が多いのが現実です。「進路について子どもと十分に考えられない保護者が増えているならば、保護者への働き掛けも前倒しすべきかも……」という声を先生方はどう受け止めますか?



「生きたデータ」2012年12月号を参考に、
受験生の保護者に求める姿勢を明文化したところ……

ダウンロード

●「受験生の保護者」の姿勢チェックシート

チェック	解説	例えばこんな言葉を発していませんか？
お子様の考えにも、耳を傾けていらっしゃいますか？	インターネットの急速な普及などからも分かるように、社会は速いスピードで変化しており、保護者の方々の体験や知識が通じない場面も出てきています。自分の意見は今も正しいのか？ 別の見方があるのでは？ など1歩引いてみて、お子様に聞いてみることも大切ではないでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ●○○学部なんかに進学しても就職先はない(○) ●○○学部に行けば就職は心配ない) ●○○大学は、自分が高校生の頃は人気なかった ●○○大学は資格試験の合格者が多いからお勤めだ ※もしかすると、受験者数が多いだけで、合格率は低いかもしれません！
今の成績だけで合格可能な大学を考えておられますか？	2年生の3学期からの頑張りで、3年生の夏から秋にかけて、成績がグンと伸びる受験生はたくさんいます。また、今はまだ成果は出ていなくても、お子様は十分に努力をしているのかもしれない。今の成績だけで志望大を決めるのは早計です。	<ul style="list-style-type: none"> ●どうせ○○大学なんて無理に決まっている ●○○大学に行くなら、浪人しないと(もちろん浪人なんてさせられない！) ●○○大学に合格したいなら、もっと何倍も勉強しないと
大学卒業後を見通してアドバイスされていますか？	大学さえ卒業すれば何とかなる時代、大学名だけで幸せな一生が送れる時代ではなくなりました。4年間強い興味を持って、人生の土台づくりとして学び続けることが出来る大学や学部をお子様は	<ul style="list-style-type: none"> ●とにかく○○大学より偏差値が上の大学じゃないといけない ●○○大学さえ出れば何とかなる

私の狙い

保護者に、もうすぐ受験生になる子どもとの向き合い方、求められる姿勢を理解してもらいたかった

取り組み内容

受験生の保護者に求められる姿勢の一覧を作成してクラス通信に掲載。各家庭に配布した

感じた課題

保護者からの反応は無かったが、先輩教師から「上から目線ではないか」と指摘された。学校の要望は伝えたが、学校として生徒をどう育てたいかは伝わらなかった



前任校では3年生0学期に、クラス通信の中で受験生の保護者として求められる姿勢をお伝えしました。保護者からは特に反応は無かったのですが、先輩の先生から、保護者が「学校から叱られている」と感じるのではないかという指摘がありました。B先生はこれをご覧になってどのようにお感じになりますか？



A先生が作成したような「NGワード集」は私も作ったことがあります。保護者会で配り、説明したのですが、保護者の方も「そうそう、つい言ってしまうよね」などと、反応は良かったです。つまり、ネガティブな内容であっても、保護者の前で教師が感情を交えて説明すれば、保護者の共感を得られる可能性は高くなるけれど、配布物のような一方的な発信では、想定外の受け止められ方をされるリスクもあるということだと思います。



確かにそうかもしれません。私としても「NGワード」を機械的に頭に入れていただくことを望んでいたのではなく、これをきっかけに、受験生になる我が子の接し方について考えていただきたかったのです。



ええ、私も「学校は、保護者と一緒に考えようとしている」ということを伝えられるかどうかポイントになると思います。

ダウンロード

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご利用ください！

HOME→教育情報→高校向け→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2010年度10月号 生徒と教師の助走期間としての3年生0学期の意識付け
2011年度10月号 教師、生徒の準備期間としての3年生0学期の指導
2012年度12月号 保護者を「受験生の保護者」にする2年生冬休みからの働き掛け

「もっと響く指導」のポイント

②

3年生0学期からの1年間を見通し、
学年方針を伝えながら保護者を受験生の親に



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」作成改訂案



●受験までの1年間を知り、保護者としてどうかかわるかを考えるための資料

	行事	生徒の様子	保護者へのお願い
1月	<ul style="list-style-type: none"> センター試験校内プレテスト 進研模試(記述) 生徒と保護者の進学意識調査 	<ul style="list-style-type: none"> センター試験までちょうど1年となり、3年生0学期の緊張感を持っていますが、冬休みの生活リズムからなかなか抜け出せない生徒もいます。 授業では「3年生0学期のうちに苦手克服を目指そう」と声を掛けていますが、実際に着手できている生徒と、3年生になってから始めようと後回しにしている生徒に二極化しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校では意識的に「受験まであと1年」と声を掛け、受験生としての緊張感を高めています。進学意識調査などをきっかけに、ご家庭では入試の先にある「大学での学び」「大学生活」に目を向けさせてください。本人が興味を持っている研究や、大学生活の夢を聞いてあげることが、勉強に取り組む意欲につながります。 3年生で自立して学習が行えるよう、この時期からはあえて学校からの課題を増やしています。これは生徒一人ひとりが取り組むべき学習内容の優先順位を考えていけるようにするためです。ご家庭では、食事や睡眠などの生活面でのサポートをお願いします。 進学意識調査の内容によって、個別に担任教師との面談をお願いします。その際はご協力をお願いします。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 学年末考査 二者面談 進研模試(マーク) 進路研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 私立大入試が本格化し、個別学力試験も行われるこの時期、2年生は「3年生の先輩はどこを受験するのか(自分は来年どこを受験することになるのか)」と大学入試への関心を高めています。 担任教師との面談を通して「志望校合格までどれだけギャップがあるか」「そのギャップをどう埋めるか」を考えている時期です。3年生に進級してからの学習計画を立てるために、春以降、3年生の計画表へとことを学校へ続く 	<ul style="list-style-type: none"> 各大学の倍率や難易度などが家庭でも話題になることが多くなる時期ですが、「難易度や倍率が高い大学が良い大学」ということではなく、「本人が学びたいことを存分に学べる大学が良い大学である」という気持ちで、ご家庭でも語り合ってください。大学を安易に序列化するような言葉ばかりだと、お子様が家庭で進路のことを話しにくくなってしまいます。 生徒の中には、春休みの学習として新しい問題集を探したり、塾や予備校の講習会への参加を考えたりする子が出てきます。しかし、基本的にはこれまでに使ってきた教科書や問題集を使った家庭での学習を大切にさせてください。
3	<ul style="list-style-type: none"> 大学生と語る会 		

「もっと響く指導」のために改訂すること……



大学入試を理解するための最低限の知識が、3年生0学期の保護者には必要です。具体的には模試帳票の見方や考え方、出願・入試日程などの情報です。それを理解していただいた上で、学校が「日々の授業を大切にして基礎学力を固め、高い志望を実現することを目指している」という指導方針を保護者に伝えることがポイントです。



入試に関する情報だけでなく、学校としての指導のあり方をしっかり伝えることで、保護者の漠然とした不安が解消されそうですね。



更に、保護者自身が「受験生になった子どもとどう向き合うか」を考える機会になる資料が望ましいですね。一般論で考えるのではなく、我が子にもっと手を掛けるべきか、あるいは徐々に手を離していくべきか、これまでの子どもとの関係も踏まえて考えるきっかけにしましょう。



進路実現のために生徒はどんな思いを抱え、学校はどんな指導を行っているかを伝えた上で、3年生の保護者としての姿勢を考えるきっかけとなる資料が必要なのでしょうね。



そう考えると「NGワード集」のような見せ方を改め、「学校からの提案」を伝えていく項目を設けてもよいでしょう。3年生0学期をこれからの1年間の覚悟を求める時期とするのであれば、保護者に対しても1年間を見通しながら、「学校と一緒に頑張りましょう」と呼び掛けるツールを考えたいですね。

プラスαの検討ポイント

From 編集部

目の前にいる
生徒・保護者に合わせて
取り組みを
検証

保護者に対する働き掛けが重要であるという点では、今回の検討会に参加した5人の先生方の意見は同じでした。ただ、「何を、どのように伝えるか」という点では各校で苦勞をされているようです。実際、進路指導計画に「保護者に、授業が入試学力の土台となることを理解してもらう」と記述されていても、どんなデータや言葉で、どのタイミングでそれを伝えるかは、学年方針や生徒の特性によって変わります。自校の状況を踏まえて、3年生0学期の保護者にどう働き掛けるか、毎年新たな気持ちで見直すことが必要かもしれません。